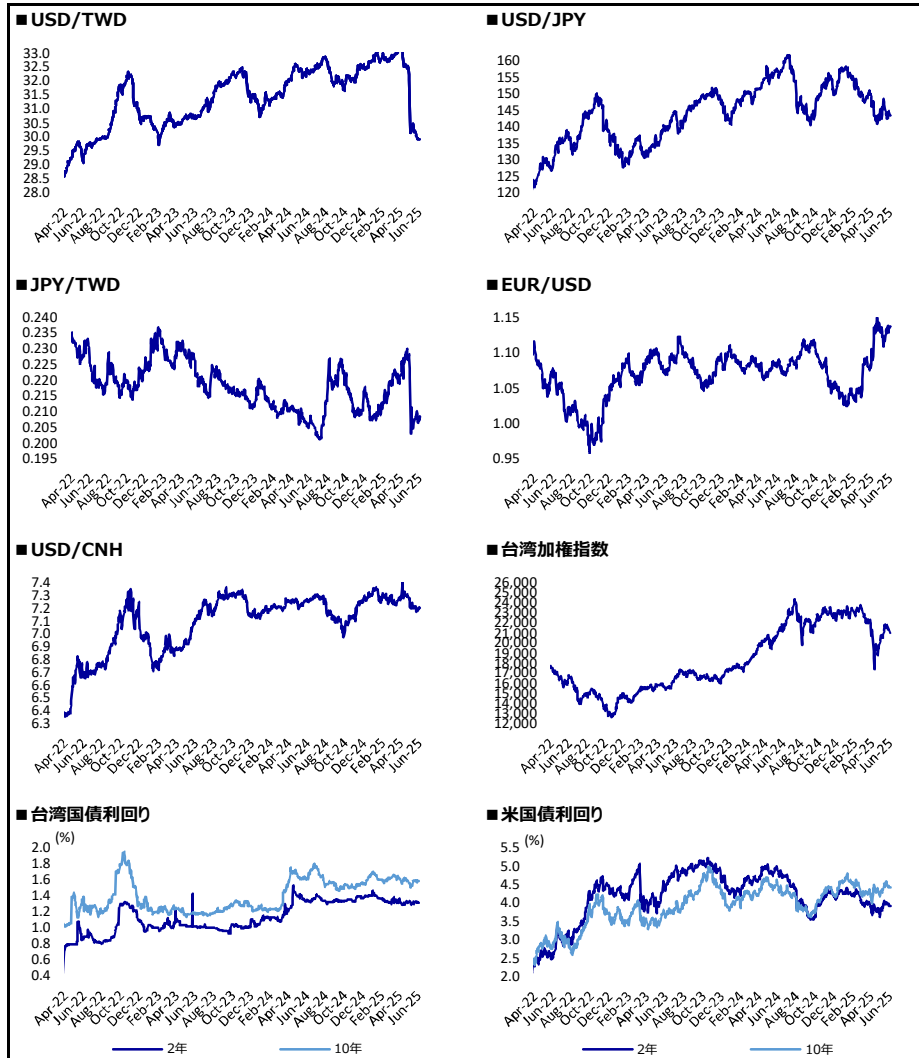


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初5/26は30.000でオープン後、海外市場におけるドル安が一段と加速したため、一時29.857まで売られたが、台湾当局によるポジション調整と見られるフローが入り、ドルの下値をサポート。5/27、外資主導のドル売りが優勢となり、台湾ドルは一時29.82近辺まで上昇。しかし、後場は輸入企業のドル買いや台湾当局のポジション調整で、ドルは29.90台まで値を戻した格好。5/28は、海外市場ではドルが反発したことを受け、台湾ドルの上値を抑えたものの、外資や輸出企業によるドル売りも入り、方向感が出にくい相場となった。5/29は、米国際貿易裁判所のトランプ関税一部差し止め命令を受け、ドルの買い戻しが進み、一時30.005まで上昇。しかし、高値では輸出企業のドル売りも待ち構えているため、ドルは上げ幅を縮小。最終的には前週比0.31%ドル安台湾ドル高の29.929で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は206.7億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は続伸。週初5/26は142.50でオープン後、トランプ大統領が対EU50%関税発動の延期に同意したとの報道が流れ、143円前後まで上昇。5/27は、日銀植田総裁の「経済・物価情勢の改善に応じて引き続き政策金利を引き上げ、金融緩和の度合いを調整していく」との発言を受け、ドルは142円台前半に低下したが、日本財務省による超長期国債発行の減額に対する期待が高まり、円金利低下に伴いドルは144円台前半まで急上昇。5/28は、144円台後半のレンジ内で推移した後、欧米時間では、米金利上昇につられ、ドル買い優勢の展開。ドル円も145円前後まで買われた。週末にかけては概ね144円を中心として上下。その後、トランプ大統領は中国を批判、鉄鋼・アルミニウム関税の引き上げに言及したため、リスクオフの円買いが先行。最終的には前週比1.02%ドル高円安の144.03で先週の取引を終了。

■ USD/TWD 予想レンジ：29.700-30.300
今週のドル/台湾ドルはレンジ相場を予想。重要な経済指標やイベントを控え、やや方向感の出にくい環境となるが、ドル資産離れの動きが続く限り、ドルの戻り売り姿勢を維持。

■ USD/JPY 予想レンジ：140.00-145.00
今週のドル/円は揉み合い推移を見込む。米財政状況の悪化やトランプ政権による政策の不確実性がドル資産の魅力を減退させ、引き続きドルは上値重い展開を予想。

今週の予定

6/2 (MON)	中国市場休場、米5月ISM製造業景況指数
6/3 (TUE)	植田日銀総裁講演、中国5月Caixin製造業PMI、韓国大統領選挙
6/4 (WED)	米5月ADP雇用統計、米5月ISM非製造業景況指数
6/5 (THU)	ECB定例理事会、米4月貿易収支、台湾5月CPI
6/6 (FRI)	米5月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。